

白木志乃プロフィール

学歴

- ・ 山口県立下関南高等学校卒業
- ・ 女子栄養大学短期大学部入学
- ・ 女子栄養大学実践栄養学部編入学

職務経歴

- ・ 大学時代のバイト歴：歯科受付、学童保育スタッフ、イタリアンレストランウェイトレス、スーパーでの食品のデモンストレーション
- ・ 下関厚生病院（現 下関医療センター）栄養治療部入職
- ・ 株式会社白木屋グランドホテル若女将
- ・ 管理栄養士地位向上協会（ファンスタディ）

資格

- ・ 管理栄養士
- ・ フードスペシャリスト
- ・ 第二種衛生管理者

経歴

幼少期：夢は保育さん（保育の母の影響）

小学校時代：夢は養護教諭（養護教諭の先生が好きで憧れていた）

高校時代：私の在学時、下関南高校は女子高で進学者がほとんど。就職者には公務員初級の仕事に就く人がいた。友達も多く、バレー部に所属。

進学時に養護教諭か管理栄養士か迷う。

親から資格を取らないなら、大学には行かなくていいと言われていた。私自身、手に職が欲しいと思っていた。

親友が拒食症で、食べることの大切さを感じるようになり、栄養士の仕事にも興味を持つことに。

家庭科の先生の相談に行くと、栄養士を目指すなら「女子栄養大学」を勧められる。

女子栄養大学には管理栄養士コースと養護教諭コースがあった。まず、女子栄養大学短期大学部に進学し、短大2年の時点で編入試験を受け、どちらかのコースを選ぶことにした。

短大時代：編入進学は成績順だったため、短大時代はよく勉強し奨励賞も取得。恋愛、友人との時間、茶道部、サッカーサークル、バイト等、あっという間の2年間。

大学時代：病院での栄養指導業務を目指し管理栄養士コースに進み、臨床栄養学研修室に所属。大学が運営する栄養クリニックで実習、卒論作成。

卒業後は地元での就職を考えていたので帰省先実習を希望し、下関保健所実習を受ける。大学に地元の求人情報は来ないので、自分で各病院に採用を問い合わせた。

病院時代：下関保健所実習でお世話になった管理栄養士さんから、厚生病院の採用枠の連絡を頂く。採用試験に合格し、下関厚生病院栄養治療部に直営の管理栄養士として入職。

【勤務時当時の厚生病院】

- ・急性期 300床の総合病院
- ・食数 250食弱(普通食、治療食、流動食等)
- ・直営の従業員（正職員管理栄養士2名、パート管理栄養士1名、栄養士1名）
- ・給与 公務員ベース+全てではないが時間外の手当

献立作成などの給食管理、NST（栄養サポートチーム）で主に低栄養患者さまの栄養管理、静脈経腸栄養学会での学会発表等の業務を経験。

多忙で8時出勤、退社は19～20時。やりがいはあるが、家庭を持って勤めるのは自信がないと考えていた。

山口県栄養士会に入会し、土日もスキルアップのため勉強会にも参加。

若女将時代：白木屋グランドホテルに嫁ぐことになり（恋愛結婚）、やっと仕事にも慣れてきたところだったが4年3か月で病院を退職。

旅館では若女将として、接客、花活けの他、資格を活かし、ヘルシー会席（1000Kcalの会席料理）を考案。また、従業員50人以上の施設には必置の第二種衛生管理者の資格を取得。

お客様、従業員、業者さん、我が子の誕生、多くの出会いに恵まれた。全てが初めてのことばかりで戸惑いも多かったが、いろいろな体験をし視野が広がった。従業員100名は家族同様、現在もそれが財産。

ファンスタディ時代：閉館を機に、ファンスタディの管理栄養士講座ウェブサイトで主に音声（耳単語帳）を担当。パソコンは栄養ソフトを使っていた程度で、ほぼ初心者。

7歳、5歳、1歳と幼い子供が3人居るため、家庭を優先したパートタイマーでの勤務。

資格があったからこそ、ファンスタディの仕事を頂け、改めて資格を持つことの強みを感じる。また、病院を辞めて6年、管理栄養士の知識は自分でも落ち込むほど忘れており、資格取得後も知識の維持・向上の大切さを痛感。

栄養士・管理栄養士は「心と身体の栄養」のスペシャリスト。それに誇りを持ち、いろいろな経験を仲間と一緒に成長し続けていきたい。

また、自分の為、家族の健康を守る母として、「心と身体の栄養」を大切にしたい。子供たちに出す食事は健康に生きるための、生きた媒体。健康的で温かみのある食事を大事にしたいし、子供たちと料理することも日々楽しみたい。